

## 第45回秋田市環境審議会 議事要旨

日 時 令和8年3月24日(火)  
午後2時30分から午後4時まで  
会 場 秋田市役所本庁舎5階第3、4委員会室

### 1 出席者

- (1) 秋田市環境審議会委員(15名中12名出席)  
越前谷仁美委員、加賀谷久志委員、菅原勝康委員、菅原拓男委員、杉山秀樹委員、高橋敦子委員、竹田勝美委員、富永健一郎委員、七山淳一委員、縄田浩志委員、福岡真理子委員、蒔田明史委員
- (2) 秋田市環境部  
佐々木毅環境部長、伊藤妙子環境部次長  
環境総務課：橋本春樹課長、鈴木悟地球温暖化対策担当課長、内山俊紀参事、保坂留美子主席主査、田近真由子主査、大淵啓矢主査  
環境保全課：作田立子課長、伊藤功一課長補佐、山崎剛主席主査、齋藤聡敏主席主査  
高橋典之ごみ処理施設建設準備室長、原田浩環境都市推進課長、阿部光孝廃棄物対策課長、小野文彦総合環境センター所長
- (3) 秋田市保健所  
衛生検査課：齋藤稔課長、澤田千元技師

### 2 次 第

- (1) 開 会
- (2) 環境部長あいさつ
- (3) 委員紹介
- (4) 職員紹介
- (5) 議 事  
ア 会長および副会長の選出  
イ 秋田市環境基本計画の改定について  
ウ 秋田市内の地下水におけるPFOSおよびPFOAの指針値超過について(報告)
- (6) その他
- (7) 閉 会

佐々木環境部長のあいさつに続き委員紹介、職員紹介を行った。その後、会長および副会長の選出を行い、会長のあいさつの後、議事に入る。

会長は菅原拓男委員、副会長は菅原勝康委員。

秋田市環境基本計画の改定について、環境総務課より説明した。

質疑の後、秋田市内の地下水におけるPFOSおよびPFOAの指針値超過について、環境保全課より報告した。

再度、秋田市環境基本計画の改定についての質疑を行った。

【質疑の内容】

5 (2) 秋田市環境基本計画の改定について

会長           どうぞご意見がございましたら、どこから始めていただいても結構ですのでお願いします。

委員           今回、平成29年から大きく変わったことがいくつかありまして、ひとつは、環境省で種の保存法が出て、対象のゼニタナゴとシナイモツゴという2つの種類は、取るだけで500万円以下の罰金、5年以内の拘禁刑ということです。シナイモツゴであれば、秋田市でかなりの所で生息していて、それが特定二種となっています。第一種、第二種でいろいろと細かい規制の中身が変わっているほか、新種としては、ジュウサンウグイ、キタスナヤツメ、キタドジョウなどがある。調査内容に今まで記載のなかった種の保存法という言葉を出すのであれば、アンケートを取る場合そういった変更点をまず説明しないとだめだと。

生物多様性に関するものも、中身的にかなり変わったものもある。内容に触れるのであれば、変更するもの自体をいくつか追加する必要があると考えております。

環境総務課    今、ご意見いただいたことにつきましては、なかなか市民の方は説明がなければ分かりにくいというお話がございましたので、アンケートをする際には考慮して実施したいと思っております。また、ゼニタナゴ等のお話につきましては、環境活動団体の対象の方の設問としては、希少な野生動植物の保全に関する活動という項目を新たに追加してございますので、関連させていただいて、市民の皆さん、団体の皆さんの考え方を把握していきたいと考えております。

委員           回答の方法として、「満足、やや満足、どちらともいえない、やや不満、不満」の中から選ぶことにしているが、「どちらともいえない」は、前回の「ふつう」という、よくも悪くもないところをこういう言い方に変えたということなので、自分自身がこれについてわからない、回答できない場合には、どこの答えを、それとも何もつけないことになるのでしょうか。

環境総務課    前回は「ふつう」と書いたものを、今回は判別がつかないということで「どちらともいえない」と修正させていただいたのですが、わからないから回答できない場合であっても、ぜひ我々としては回答いただきたいと。そういった場合は「どちらともいえない」で回答いただければと思っております。

委員           「どちらともいえない」をどういう意味で回答すればいいのか、ちょっと迷うのかなと。「ふつう」を可もなく不可もなくという意味で答えるべきなのか、それとも回答できないのか。例えば農地や田園環境の状態

は、必ずしも普段接していないなど。生活圏内でありそういったところに触れないという方は、秋田市内でも中心部だったらいらっしゃるのではと思ったものですから、何か回答欄にご説明があればいいと思いました。

環境総務課      もう一度検討させていただきます。

委員              このアンケートは、秋田市民の方の全体的な評価というのを取ろうということだと思えるのですけれども、こういう環境に関するアンケート、これだけ大規模に取られるのだったら、その結果をできるだけいろんな意味で解析できるような形にすべきではないかなと思います。いくつか提案がありますが、回答される方の属性について、一般市民対象の場合、一番最後にご自身のことについて聞いていますが、例えば出身地も質問に入れて、秋田市または秋田県にずっとおられる方と、外から来られた方と比較してみるというのも、観点としては面白いと思います。秋田にずっといる方というのは、これがある意味普通だと思っている。他県から見ると、それは違っているというのは、環境に限らずいろいろあるので、せっかくなさくさんのデータが取られるので、解析できるような仕掛けを考えた方がいいのではと思います。

もうひとつは、若い人の意見をできるだけ聞きたいと思って、例えば市内に大学が4つあるので、その学生をターゲットにしたアンケートの取り方というのはできないだろうか。特に学生は他県から来ている人もたくさんいるので、秋田に来てみてどう思ったかなどは、秋田市の環境行政、行政全般に関して、非常に重要ではないかと思いますので、大学の協力をもらってそういうことをやるのもあり得るのではと思いました。

それからもうひとつ、これは具体的な設問についてですが、例えば生物多様性についての質問が付け加わったのはいいことだと思いますが、この中で「言葉を知っている」からすぐに「活動しますか」となっているのは、ちょっと飛びすぎではないか。秋田市の生物多様性についてどう思うのかという評価は、聞いておきたいと感じました。

委員              市民対象の問1(2)の19番にハクビシンを入れていただきたいと思います。私は飯島に住んでいますが、数年前に夫が珍しい動物を見たと言うことで写真を見せてもらったところハクビシンでした。とてもびっくりしたのですが、それから数年後、市立病院そばの空き家になっている私の実家に、動物が棲みついで、どうもハクビシンみたいだと。薬剤を散布してもらい侵入できないようにしたのですが、友人に話したところ、空き家があつて小動物が出入りしているのを見ることがあると。現実にかうして空き家が増えて、そういったところにハクビシンだけでなく小動物も侵入して悪さをしているのではないかと思われまうので、ぜひハクビシンを加えていただきたいと希望を申し上げました。

会長              事務局の方で、この件は既に検討していただいたのではないかと思います。小動物あるいはクマの扱いなどは、どのように考えられたので

しょうか。

環境総務課 今、ハクビシンのお話を伺いました。基本的に前回の調査との定点観測といった面はございますが、検討をさせていただきます。

委員 問1の6つ目の設問に「身近な自然環境の状態（山・森・川など）」があって、問2で同じように8番目の選択肢で、「身近な自然環境（里山、河川、緑地など）の保全・再生」とあります。これは、若干ニュアンスが違うような。緑地とか里山というと、人の住まいに近い、まさに身近な地域の中の自然的なところがあって、世論調査などでも水辺、緑地帯が使われているようですけども、問1と問2でそのカッコ内を分けている意図があるのかを教えてください。

環境総務課 基本的には、区別した意図はないのですが、里山、河川、緑地の方は、より市民に近い感じもありますので、統一する方向で検討させていただきます。

会長 市民調査の中で温暖化を取り上げていますが、気候変動で秋田の場合ですと、冬場の急な雪、除雪の問題は、市民の関心は大きいと思います。今日は限られた時間ですので、後ほど時間が残っていればまた質疑したいと思います。  
それでは、議事の3番目に移ります。

#### 5 (3) 秋田市内の地下水におけるPFOSおよびPFOAの指針値超過について (報告)

会長 追加調査の結果、問題と思われていた地域が広がっていなかったのが一番良かったと思いますが、説明の中で飲用を控えるようにというのは、いつ頃までなどはありますか。

衛生検査課 飲用は当面控えてくださいという話をしていますけれども、飲用を控えるためには水道水に切り替えてくださいという言い方になっています。

委員 PFOSおよびPFOAを製造していた事業者が過去にいたということですが、こちらはいつまでそのような事業をしていたかわかりますか。

環境保全課 PFOSおよびPFOAに関しては、国際的に製造は禁止されておりますので現在は製造されていないのですが、こちらの事業者では、PFOSについては2009年、PFOAについては2019年まで製造していました。

委員 もう10年以上経っているということなのですが、成分の濃度が低くなるというか、抑えられるようになるまでには何年くらいかかるものでしょうか。

環境保全課 製造していた事業所があったのはわかっていることなのですが、ここは原因の可能性の一つとして捉えておりました。過去に半導体ですとか金属の加工ですとか、消火剤ですとかいろいろなことに使われており、やはりそれが環境中の広い範囲で残っている可能性があるかと捉えておりますので、事業者が出したPFOS・PFOAがどれだけ薄まっているかというような知見は今のところありません。世界的に見ると川や海はだんだん減少傾向になっているという知見はありますので、今回50ng/Lを超えて検出された場所については、代表的な地点で経年的な推移を、観測していく予定です。

委員 この地点以外にも調査はしているのですか。ここは基準値が大きく上回っているところだと報告されているのですか。

環境保全課 秋田市として、まずPFOSおよびPFOAは今年度から調査し始めまして、今年度の調査結果は、この資料に載っている表面の地下水の結果と裏面の河川の結果が全てです。河川については、今年度は下流の地点しか行っておりませんので、来年度、上流を調査する予定であります。

委員 河川の調査結果を見ますと上流を見るのか、あるいはこれを見ると馬踏川とか基本的には全部八郎湖に入る川、あるいは岩見川を含め雄物川の河口の方に集まるのですね。太平川も猿田川も。鮎川はこれだけで独立した河川ということになりますか。今のお話ですと上流というような言い方をされましたけれども、と同時に下流なり、下の方で集まってとか、そういういろんな形で複合的に利用するような形ではないでしょうか。

環境保全課 河川の調査地点ですが、環境基本法における環境基準がありまして、それに基づいて川の汚染状況は当課では毎年調査していますが、その調査地点というのが河川については23地点と決まっております。そのうちの今年度は下流側の部分を行って、来年度は上流側の残りの地点の調査を行うこととしております。

会長 いずれにしましても、もともとPFOSおよびPFOA関係は、地下水と言いましょか、工場の地下水からの拡散の問題ですよね。それと今のような観測地点との関わりは現場の方を見られている、環境保全課でよく調べられればお分かりになることでありましょかから、むやみに広げても仕方がないことですので、そこをご判断いただければと思います。

では、残りの時間で、またアンケートについて広くいろんなご意見を5(2)秋田市環境基本計画の改定について聞きたいと思っております。どうぞ。

委員 前回、平成27年に調査されたときの調査対象人数と回収有効件数を教えてください。

環境総務課 調査対象は、一般市民18歳以上1,000人、事業者200者、環境関連活動団体70団体です。回答率は、市民55.1%、事業者65.0%、活動団体49.3%の回答をいただいております。

委員 この結果は、環境部としては大体予測の範囲の数値まで得られたという解釈でよろしいでしょうか。

環境総務課 他の部局のアンケート調査結果を見ましても、これは比較的高い回答率だと思っております。今回は更にそれに上積みできるような形で回答いただければと思っております。

委員 秋田市地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けて市民や事業者を対象にアンケートを行い、毎年かなりの回答を得ております。市民向けアンケートはこの55%をはるかに超える数を、アプリを使って集められます。事業者支援では今年度200者から回答を得てアンケートを集計しています。秋田市地球温暖化防止活動推進センターの機能も活用いただきながらという提案が一点。もう一点はアンケートの時期について。前は9月、今回も7月下旬から8月下旬というところで、大きなイベントから外れてしまう。環境展は6月上旬、あきたエコフェスは秋で、直接的に市民の皆さんや事業者にアンケートを取りやすい機会を逃してしまっていないかなど。もう少し追加で受けられるような形で手配いただくと、回収率がもっと上がってくるのではないかなど考えます。それと、私たちのような環境団体としては、何に課題意識を持っているのかを、ぜひ聞いてみたい。今回、「環境をどう思いますか」という聞き方ではなく、「あなたはどこに秋田市の環境の課題意識を持っていて、何をしたいですか」というようなところをできれば抽出していただきたいと考えております。

会長 近年、環境意識が市民レベルで高まってきていると言いましょうか、変わってきましたので、今回アンケートを取ったらやはり数年でもだいぶ変わってくると思います。

委員 今回のアンケートの取り方についてですが、無作為抽出とは、18歳以上の市民全体から1,000人を選んでアンケートを送るというやり方ですね。ですから、イベントの時とはちょっと違う形なので、イベントの場合、そこに来られている段階で意識が高い方という判断ができるので、アンケートの取り方は考えていただいた方がいいかと思っております。

委員 このようなアンケートは他都市や他県でもやっていると思いますが、それとの違いとか、秋田市だけの特徴はありますか。前回のアンケート調査は、株式会社フィデアでしたか。これはどこまで会社に委託しているのか、データの特徴とか、そういう読み取りまでやってくれるのですか。どこまでお任せするのか関心がありました。

環境総務課 他市との違いは秋田市の場合、設問数が20問くらいとかなり多いと思っております。もうひとつ、前はフィデア情報システムズへ委託し意識調査全般から分析までをお願いしていましたが、今回は全て市の直営で行う予定にしております。

委員 先ほどの調査の仕方についてですが、規模は違いますが学校でも学校評価の調査を全保護者、児童生徒対象で行っているのですが、以前は紙ベースで行ってたものが、今はWEBが主流になっています。先ほどの説明で紙と併用して行うというようなお話でしたが、やはり環境について扱うということであれば、一気にペーパーレスにしても、それもまたひとつのメッセージとしてよろしいのではと思ったところでした。

委員 このような意識調査などの上に、今後の基本計画が成り立っていくことが確認できました。

委員 集計方法についてですが、ペーパーレスになってフォームなどで回答しやすくなっていると思いますので、1,000人に対して回答率60%であれば、例えば回答率10%くらいでも10,000人にメールで依頼すれば1,000人からより幅広い意見が得られると思います。

会長 ご意見等ありがとうございました。

## 6 その他

委員 第12回環境と再生可能エネルギーに関する国際集会において最優秀発表賞を受賞しましたので報告します。

「日本における廃止石油・ガス坑井封鎖コストとカーボンオフセットクレジット発行の検証：秋田県黒川油田の天然ガス排出量に関する現地調査結果に基づいて」